

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	このき尾張旭校			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 10日	～	2025年 3月 19日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	2
○従業者評価実施期間	2025年 2月 10日	～	2025年 2月 18日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 19日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎日異なる活動を行っている。 個別専門支援プログラムや運動療法を実施している。	利用者様の興味関心に応じて職員間でアイデアを出し合っている。 個人に合わせたSSTを取り入れ支援を行っている。 5領域の運動・感覚に基づいて発達段階や特性に応じ、無理のない運動メニューを考え実践している。	それぞれのメニュー内容が固定化しないように、職員間でアイデアを出し合う機会を増やす。
2	職員間での情報共有を行っている。	毎日定時に職員でのミーティングを行い、その日の活動の流れや、利用者様の共有事項を話し合っている。 また月一回職員会議を行っている。 連絡帳やLINE、送迎時に聞き取ったことなど、保護者様からいただいた情報はリアルタイムで職員間で共有したり、職員共有ノートをつくり、記録をとっている。	会議内の決められた時間内で意見が出しあえるように、日ごろから職員間の連携を強化していく。 職員間で、お互いが相談しやすい雰囲気づくりを心がけていく。
3	保護者様とのコミュニケーションを大切にしている。 相談支援員との連携をはかっている。	その日にあったことや、できたことをどんなことでも伝えるようにしている。保護者様が相談しやすい雰囲気をつくるように心がけている。 相談支援員には、定期的に利用者様の状況を伝え、課題が見つければ解決に向けて話し合いを行っている。	送迎時の伝達など、日々の保護者様とのコミュニケーションを欠かさない。 必要に応じて、面談の機会をつくっていく。 相談支援員との連携も強化していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他事業所との連携が少ない。	他事業所の取り組みを知る機会が少なく、支援の幅が広がりにくい。	他事業所と情報共有できる場に参加し、各事業所の作成した資料に沿って支援方法や課題を共有する。 自社内の事業所見学などの機会も検討していく。
2	事業所が狭く感じる。	身体を動かして遊ぶのが好きな利用者様が多いうえ、利用人数が多くなるとどうしても支援室が狭く感じてしまうことがある。	必要な物品を選別してスペースを確保したり、物品の配置を変えることで使用できる空間が増えないかを定期的に話し合っていく。
3	バリアフリー化されていない。	玄関先に段差があり、利用者様が躓きやすくなっている。 出入り口が1か所しかなく、緊急時の経路が一通りしかない。	玄関の段差を解消するための工夫を検討していく。 緊急時の避難経路を再確認する。